

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	317	456	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	4	8	ヘルパンギーナ	9	13
咽頭結膜熱	20	16	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	5	3
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78	110	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	321	463	流行性角結膜炎(はやり目)	8	11
水痘	77	72	細菌性髄膜炎	0	2
手足口病	37	43	無菌性髄膜炎	1	0
伝染性紅斑(りんご病)	4	4	マイコプラズマ肺炎	0	4
突発性発しん	38	48	クラミジア肺炎	0	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- インフルエンザ
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数321件(前週報告数463件)と減少。地区別では、菊池、八代、山鹿に多く報告がみられます。年齢別では、1歳の58件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- インフルエンザは、報告数317件(前週報告数456件)と減少。地区別では、菊池、天草、山鹿に多く報告がみられます。年齢別では、10～14歳の62件を最多に幅広い年齢層からの報告です。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、報告数78件(前週報告数110件)と減少。地区別では、菊池、天草、熊本に多く報告がみられます。年齢別では6歳の17件を最多に10～14歳以下からの報告です。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	80		5	37	77	29	9		10		1	1		8		1		
山鹿保健所	16				19	1	3		1		1		*	*				
菊池保健所	84		8	19	77	19	16	1	7			1						
阿蘇保健所	6			1	4								*	*				
御船保健所	12				5								*	*				
八代保健所	17			1	44	4		3	6									
水俣保健所	5	1			6	4			1				*	*				
人吉保健所	10	2			14	5	1		4		1		*	*				
有明保健所	29		3	3	38	5	7		2			1						
宇城保健所	19	1	3	6	23	8			1		2		*	*				
天草保健所	39		1	11	14	2	1		6		4	2						
計	317	4	20	78	321	77	37	4	38	0	9	5	0	8	0	1	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	317		2	10	7	19	16	22	20	24	28	25	62	12	12	17	20	8	7	5	1
小児科定点年齢	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	4	2		1		1															
咽頭結膜熱	20		2	9	1	4	2	1					1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	78			2	3	11	12	10	17	6	7	3	7								
感染性胃腸炎	321	5	25	58	45	36	22	27	20	11	12	8	27	6	19						
水痘	77	1	7	15	22	14	6	7	1	1		1	2								
手足口病	37		5	26	4	1		1													
伝染性紅斑	4		1		3																
突発性発しん	38	2	16	17	3																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	9			3	2	2		1		1											
流行性耳下腺炎	5			1		1	2					1									
眼科定点年齢区分	合計	0～5月	6～11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	8			1				1							1	3	1				1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1									1											
マイコプラズマ肺炎	0																				
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎:菊池

【風しんに引き続き注意!予防接種を受けましょう。】

風しんに
引き続き注意!
予防接種を
受けましょう!



風しんは2～3週間の潜伏期を経て、発疹、発熱、リンパ節の腫れなどがみられますが、感染しても明らかな症状が出ない場合もあります。症状は、子どもでは比較的軽微ですが、まれに脳炎などの合併症が起こることがあります。また、大人が感染すると症状が重くなることも多いと言われています。風しんの予防接種は、以前は女子中学生のみを対象に行われており、予防接種を受ける機会がなかった成人男性での発生が多くなっています。今年度の累計報告数は41件となりました(昨年1年間の報告数5件の8倍以上)。41件中32件(約78%)が男性の発生で、そのうち、30代に15件と集中しており、20代(6件)と50代(5件)も報告が多くなっています。また、41件中9件が女性で、そのうち、約半数の4件が30代の発生です。これから、初夏にかけて風しんの流行期を迎えます。今後、さらに流行が拡大する可能性がありますので、今後の動向に注意してください。

●定期予防接種の対象者は、必ず予防接種を受けましょう。また、妊婦の感染を防ぐために、妊娠希望者や妊娠の可能性の高い方、妊婦の夫や子どもさん等は、任意で予防接種を受けることを検討しましょう。妊娠中は風しんの予防接種を受けることはできません。)任意接種は、費用は自己負担となりますので、小児科や内科等の医療機関にお問い合わせ下さい。

●妊婦は注意!：妊娠初期に風しんにかかると赤ちゃんの目や耳や心臓に障害をきたす可能性があります。風しんにかかった妊婦や、妊娠しているかもしれない人に近づかないようにしましょう。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供：熊本県健康福祉部 健康危機管理課